

5 農 産 第 1135 号

令和 5 年 6 月 15 日

公益社団法人 日本農業法人協会

会長 香山 勇一 殿

農林水産省農産局長

令和 5 年度冬春野菜等の需給ガイドラインの策定について

野菜需給調整関係事務処理要領（平成 14 年 9 月 2 日付け 14 生産第 2795 号農林水産省生産局長通知）第 1 の 1 の規定に基づき、野菜価格安定制度における登録生産者及び登録出荷団体が、令和 5 年度冬春野菜等に係る供給計画を作成する際の指標（需給ガイドライン）を別添のとおり策定したので、御了知の上、関係者に周知されたい。

令和５年度冬春野菜等の需給ガイドライン

令和５年度冬春野菜等の需給ガイドラインは、野菜価格安定制度における登録生産者や登録出荷団体が、令和５年度冬春野菜等に係る供給計画を作成する際の目安になる指標であり、下表の種別等ごとに示すものである。

種別等ごとの主な出荷時期

	主な出荷時期	令和５年				令和６年												令和７年			
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
冬キャベツ	令和５年１１月～令和６年３月まで																				
春キャベツ	令和６年４月～６月まで																				
冬春きゅうり	令和５年１２月～令和６年６月まで																				
秋冬だいこん	令和５年１０月～令和６年３月まで																				
春だいこん	令和６年４月～６月まで																				
たまねぎ	令和６年４月～令和７年３月まで																				
冬春トマト (大玉及びミニ)	令和５年１２月～令和６年６月まで																				
冬春なす	令和５年１２月～令和６年６月まで																				
冬にんじん	令和５年１１月～令和６年３月まで																				
春夏にんじん	令和６年４月～７月まで																				
春ねぎ	令和６年４月～６月まで																				
夏ねぎ	令和６年７月～９月まで																				
秋冬はくさい	令和５年１０月～令和６年３月まで																				
春はくさい	令和６年４月～６月まで																				
ばれいしょ	令和６年４月～令和７年３月まで																				
冬春ピーマン	令和５年１１月～令和６年５月まで																				
ほうれんそう	令和６年４月～令和７年３月まで																				
冬レタス	令和５年１１月～令和６年３月まで																				
春レタス	令和６年４月～５月まで																				

I. 需要量、供給量及び国内産供給量

1. 需要量

需要量は、過去 10 か年（平成 24 年～令和 3 年。最新のデータが令和 4 年の場合は平成 25 年～令和 4 年。以下同じ。）の一人当たり需要量（純食料ベース）の推移から、回帰式により推計年次の一人当たり需要量を推計し、これに当該年次の推計人口を乗ずることにより、下表の程度と見込む。

（単位：トン）

種 別 等	需 要 量	（参考）前年産実績
冬 キャベツ	4 2 4 , 5 0 0	4 2 9 , 1 0 0
春 キャベツ	2 5 7 , 4 0 0	2 5 7 , 4 7 1
冬春きゅうり	2 6 8 , 5 0 0	2 6 9 , 5 9 9
秋冬だいこん	6 9 2 , 6 0 0	7 0 4 , 2 6 4
春 だいこん	1 6 6 , 3 0 0	1 6 7 , 6 1 3
た ま ね ぎ	1 , 3 0 8 , 5 0 0	1 , 3 5 4 , 9 6 9
うち北海道産	7 7 1 , 5 0 0	8 1 4 , 8 7 8
うち都府県産	5 3 7 , 0 0 0	5 4 0 , 0 9 1
冬 春 ト マ ト	3 2 3 , 1 0 0	3 2 4 , 8 9 9
うち大玉トマト	2 3 8 , 1 0 0	2 4 0 , 2 0 2
うちミニトマト	8 5 , 0 0 0	8 4 , 6 9 7
冬 春 な す	9 9 , 8 0 0	1 0 0 , 3 4 6
冬 に ん じ ん	2 9 3 , 5 0 0	3 0 1 , 9 9 6
春夏にんじん	2 3 2 , 0 0 0	2 3 5 , 5 6 9
春 ね ぎ	5 9 , 8 0 0	5 9 , 6 0 6
夏 ね ぎ	6 8 , 2 0 0	6 9 , 9 7 3
秋冬はくさい	4 5 7 , 9 0 0	4 8 5 , 9 2 1
春 は く さ い	9 3 , 6 0 0	9 3 , 1 1 1
ば れ い し ょ	1 , 7 4 8 , 3 0 0	1 , 7 5 1 , 5 7 1
冬春ピーマン	7 6 , 8 0 0	7 8 , 0 9 0
ほうれんそう	2 2 6 , 6 0 0	2 2 7 , 1 9 6
冬 レ タ ス	1 4 8 , 5 0 0	1 4 6 , 2 3 4
春 レ タ ス	8 8 , 4 0 0	8 9 , 0 7 2

2. 供給量

供給量は、1で見込んだ需要量を歩留り率及び（1－減耗率）で除することにより、下表の程度と見込む。

（単位：ト）

種 別 等	供 給 量	（参考）前年産実績
冬キャベツ	601,700	598,030
春キャベツ	364,900	364,948
冬春きゅうり	294,600	295,807
秋冬だいこん	818,700	832,463
春だいこん	196,500	198,124
たまねぎ	1,529,800	1,584,017
うち北海道産	902,000	952,627
うち都府県産	627,800	631,390
冬春トマト	391,600	389,475
うち大玉トマト	285,400	287,943
うちミニトマト	101,900	101,532
冬春なす	115,500	116,142
冬にんじん	321,900	329,336
春夏にんじん	254,500	256,050
春ねぎ	87,300	86,979
夏ねぎ	99,600	102,100
秋冬はくさい	573,100	608,161
春はくさい	117,100	116,534
ばれいしょ	2,165,600	2,169,666
冬春ピーマン	95,100	96,706
ほうれんそう	273,700	274,391
冬レタス	182,600	179,781
春レタス	108,700	109,506

3. 国内産供給量

国内産供給量は、2で見込んだ供給量をもとに輸入動向を勘案し、下表の程度と見込む。

(単位：ト)

種 別 等	国内産供給量（収穫量）	（参考）前年産実績
冬キャベツ	595,900	595,900
春キャベツ	359,000	360,300
冬春きゅうり	280,100	286,100
秋冬だいこん	809,400	826,700
春だいこん	190,800	192,400
たまねぎ	1,164,000	1,214,000
うち北海道産	757,000	821,400
うち都府県産	407,000	392,600
冬春トマト	383,100	385,900
うち大玉トマト	282,400	285,300
うちミニトマト	100,700	100,600
冬春なす	113,900	114,600
冬にんじん	233,100	252,000
春夏にんじん	155,600	155,700
春ねぎ	76,800	76,100
夏ねぎ	88,300	89,600
秋冬はくさい	572,400	614,200
春はくさい	116,500	116,500
ばれいしょ	1,107,300	1,143,818
冬春ピーマン	77,300	77,100
ほうれんそう	209,300	210,500
冬レタス	176,400	175,200
春レタス	108,400	109,300

Ⅱ．作付面積

作付面積は、Ⅰの３で推計した国内産供給量を過去 10 か年の単収の推移から回帰式により推計した単収で除することにより、下表の程度と見込み、これを全国の作付面積の指標とする。

(単位：ha)

種 別 等	作付面積	(参考 1) 前年産実績	(参考 2) 前年度ガイドライン
冬 キャベツ	1 5, 0 0 0	1 5, 0 0 0	1 5, 1 0 0
春 キャベツ	8, 7 0 0	8, 7 2 0	8, 8 0 0
冬春きゅうり	2, 5 5 0	2, 5 8 0	2, 6 8 0
秋冬だいこん	1 9, 4 0 0	1 9, 5 0 0	1 9, 8 0 0
春 だいこん	4, 0 5 0	4, 0 5 0	4, 2 3 0
た ま ね ぎ	2 3, 2 0 0	2 5, 2 0 0	2 3, 6 0 0
うち北海道産	1 2, 8 0 0	1 4, 8 0 0	1 2, 8 0 0
うち都府県産	1 0, 4 0 0	1 0, 4 0 0	1 0, 8 0 0
冬 春 トマト	3, 7 9 0	3, 7 9 0	3, 7 9 0
うち大玉トマト	2, 6 2 0	2, 6 2 0	2, 6 8 0
うちミニトマト	1, 1 7 0	1, 1 7 0	1, 1 1 0
冬 春 な す	1, 0 3 0	1, 0 3 0	1, 0 4 0
冬 に ん じ ん	7, 5 0 0	7, 5 7 0	7, 5 4 0
春夏にんじん	3, 9 8 0	3, 9 8 0	4, 1 6 0
春 ね ぎ	3, 3 1 0	3, 3 1 0	3, 3 3 0
夏 ね ぎ	4, 7 9 0	4, 7 9 0	4, 8 8 0
秋冬はくさい	1 2, 0 0 0	1 2, 3 0 0	1 2, 3 0 0
春 は く さ い	1, 8 0 0	1, 8 5 0	1, 8 0 0
ば れ い し ょ	7 0, 9 0 0	7 0, 9 0 0	7 4, 8 0 0
冬春ピーマン	7 3 0	7 2 0	7 1 0
ほうれんそう	1 9, 3 0 0	1 9, 3 0 0	1 9, 8 0 0
冬 レ タ ス	7, 3 7 0	7, 3 7 0	7, 6 0 0
春 レ タ ス	3, 8 6 0	3, 8 6 0	4, 0 8 0

冬春野菜等の需要に応じた生産の推進について (令和5年度冬春野菜等の需給ガイドライン)

令和5年6月

農林水産省農産局園芸作物課

野菜価格安定制度における生産・出荷の仕組み

- 需要に即した計画的な生産・出荷を推進するため、国は指定野菜について概ね5年ごとに需要及び供給の見通しを策定するとともに、年2回(冬春・夏秋)需給ガイドラインを策定。この需給ガイドラインを目安として、出荷団体等は、供給計画を作成し、計画に即した野菜の出荷に努める仕組み。
- 供給計画に即した出荷がなされるよう、指定野菜価格安定対策事業においては、供給計画と出荷実績との乖離度に応じて生産者補給交付金を減額する措置のほか、前年度の価格低落時における需給調整の取組実績等に応じて補填率に差を設ける措置を導入。

圖に於ける事業策定と格値探察

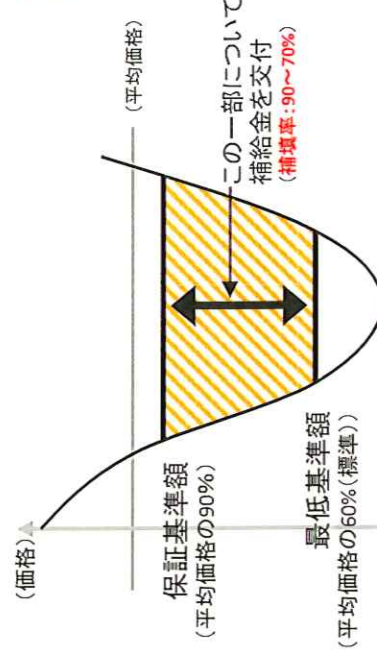
- ① 供給計画の作成を加入要件とする(契約野菜収入確保モデル事業を除く)
- ② 供給計画と出荷実績との乖離度に応じて交付金を減額

＜供給計画と出荷実績の乖離度合い＞

減額率 60%	減額率 50%	減額率 40%	減額率 30%	減額率 20%	減額なし	減額率 20%	減額率 30%	減額率 40%	減額率 50%	減額率 60%
△60%	△50%	△40%	△30%	△20%	0	△20%	△30%	△40%	△50%	△60%

※ 土20%から土60%まで、10%区隔で希釈割合を区分し、減菌率は0～60%。

- ③ 過去3年の供給計画と出荷実績の乖離度や、緊急需給調整事業の取組実績等に応じて、生産者補給交付金の補填率を設定



※ 直近3年の各年の計画的出荷割合＜120/100、かつ、計画的出荷割合の直近3年平均＜110/100

需要及び供給の見通し(国)

(概ね5年ごとに策定)

指定野菜の種別ごとに、概ね5年後の需要量、供給量、国内産供給量の見通しを策定

需給ガイドライン(国)

(毎年、6月:冬春野菜、12月:夏秋野菜に策定)

直近の需給動向等を踏まえ、種別ごとに次期作の
需要量、供給量、国内産供給量の見通し、作付面
積の指標を策定

供給計画(出荷団体等)

需給ガイドラインを目安とし、種別ごとに年2回策定
(播種・定植前の当初計画、出荷前の確定計)

令和5年度冬春野菜等の需給ガイドライン(概要)

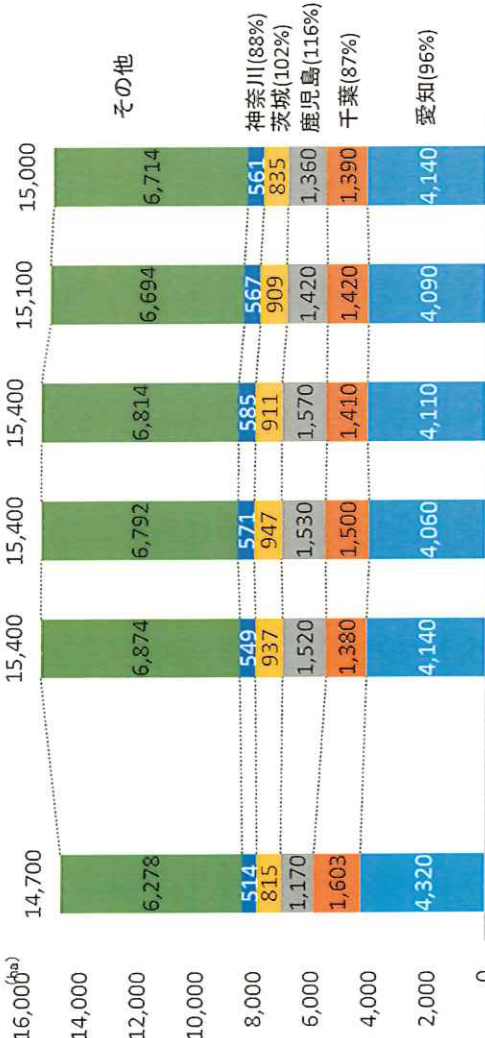
- 需給動向や人口、単収等のすう勢を基に、有識者の意見も踏まえつつ、指定野菜に係る「需給ガイドライン」を策定。
- 令和5年度冬春野菜等の需給ガイドラインでは、新型コロナウイルス感染症の制限緩和等による需要の回復を鑑み、多くの品目で直近作付面積と近い作付面積指標を提示。
- ただし、依然として一部品目においては、**価格の低落が顕著であり、引き続き需要に応じた出荷に取り組むことが重要。**

種別等	需要量(t)	供給量(t)	国内産供給量(t)	作付面積(ha)	
				前年度実績比	前年度ガイドライン比
冬キャベツ	424,500	601,700	595,900	100.0%	99.3%
春キャベツ	257,400	364,900	359,000	99.8%	98.9%
冬春きゅうり	268,500	294,600	280,100	98.8%	95.1%
秋冬だいこん	692,600	818,700	809,400	99.5%	98.0%
春だいこん	166,300	196,500	190,800	100.0%	95.7%
たまねぎ	1,308,500	1,529,800	1,164,000	93.2%	98.31%
うち北海道産	771,500	902,000	757,000	86.5%	100.0%
うち都府県産	537,000	627,800	407,000	100.0%	96.3%
冬春トマト	323,100	391,600	383,100	100.0%	98.4%
うち大玉トマト	238,100	285,400	282,400	100.0%	97.8%
うちミニトマト	85,000	101,900	100,700	100.0%	105.4%
冬春なす	99,800	115,500	113,900	100.0%	99.0%
冬にんじん	293,500	321,900	233,100	99.1%	99.5%
春夏にんじん	232,000	254,500	155,600	100.0%	95.7%
春ねぎ	59,800	87,300	76,800	100.0%	99.4%
夏ねぎ	68,200	99,600	88,300	100.0%	98.2%
秋冬はくさい	457,900	573,100	572,400	97.6%	97.6%
春はくさい	93,600	117,100	116,500	97.3%	100.0%
ばれいしょ	1,748,300	2,165,600	1,107,300	100.0%	94.8%
冬春ピーマン	76,800	95,100	77,300	101.4%	102.8%
ほうれんそう	226,600	273,700	209,300	100.0%	97.5%
冬レタス	148,500	182,600	176,400	100.0%	97.0%
春レタス	88,400	108,700	108,400	100.0%	94.6%

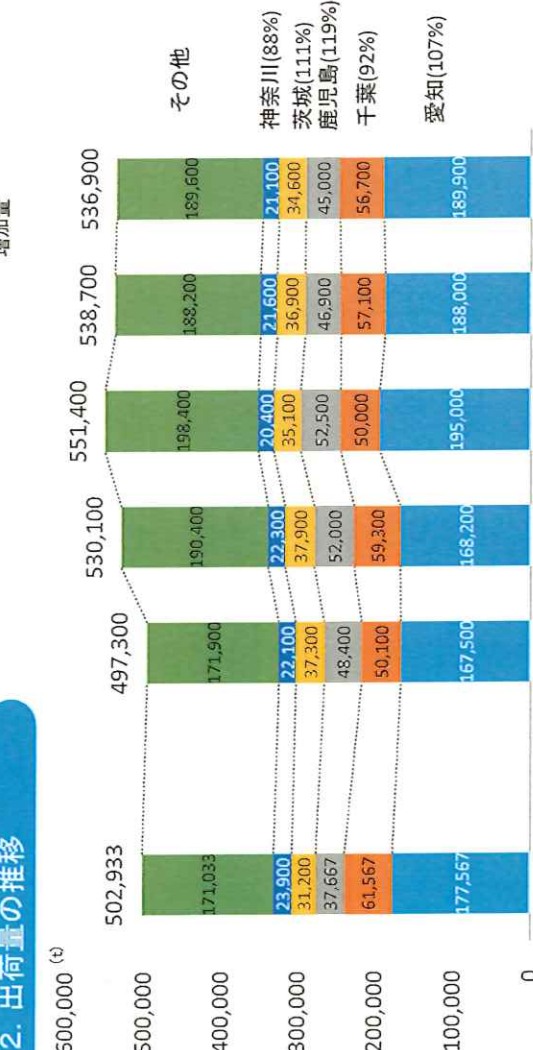
冬キャベツの生産・価格等動向①

- 愛知、千葉で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は微増で、全体出荷量は増加。主産県では、千葉の作付面積・出荷量が大きく減少した一方で、愛知、鹿児島、茨城の出荷量は大きく増加。
- 国内生産量に比べると極少量ではあるが、加工・業務用に主に中国から毎年一定量が輸入されている。国産の不作時に代替として輸入量が増える傾向。

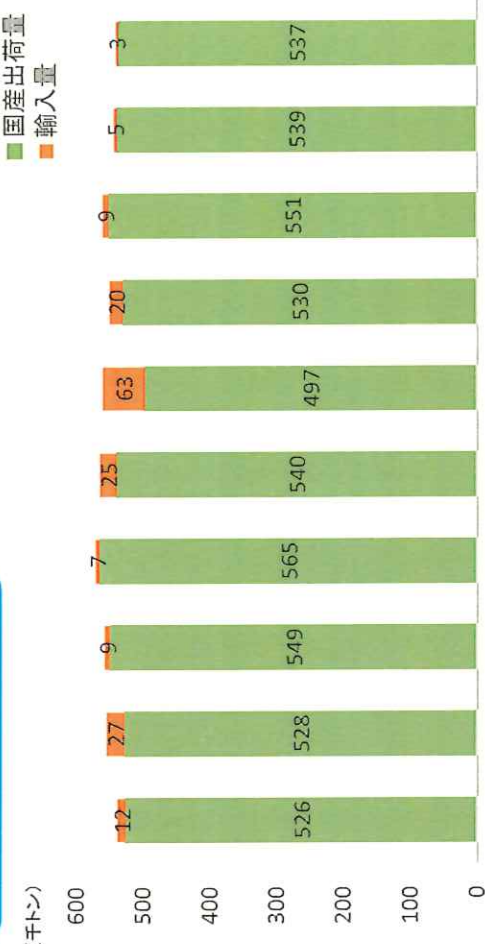
1. 作付面積の推移



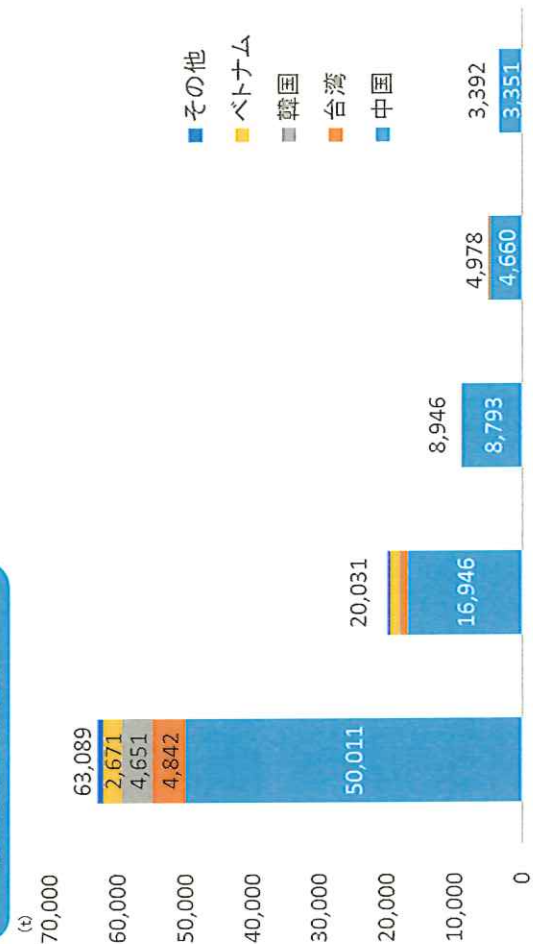
2. 出荷量の推移



3. 出荷量と輸入量



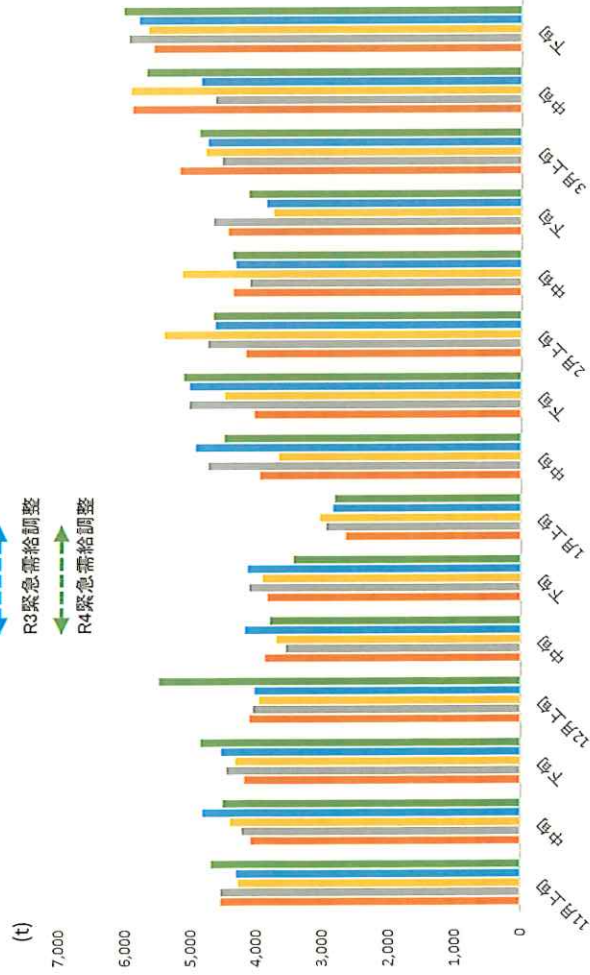
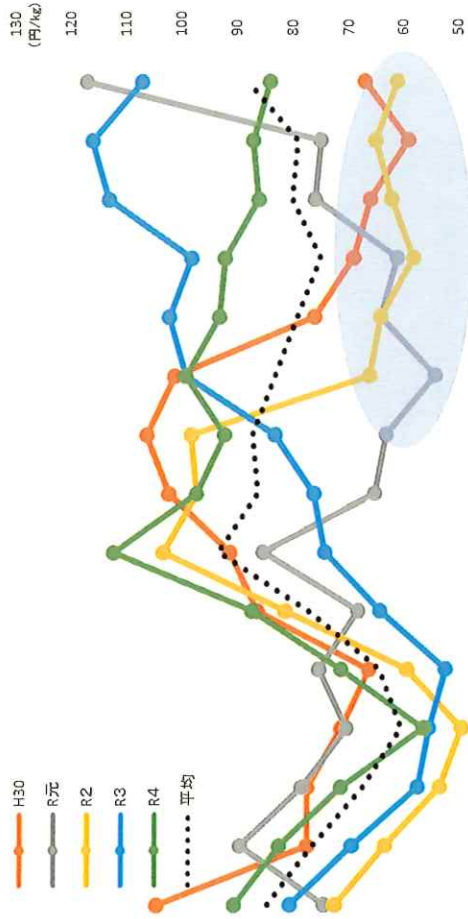
4. 輸入先国の内訳



冬キャベツの生産・価格等動向②

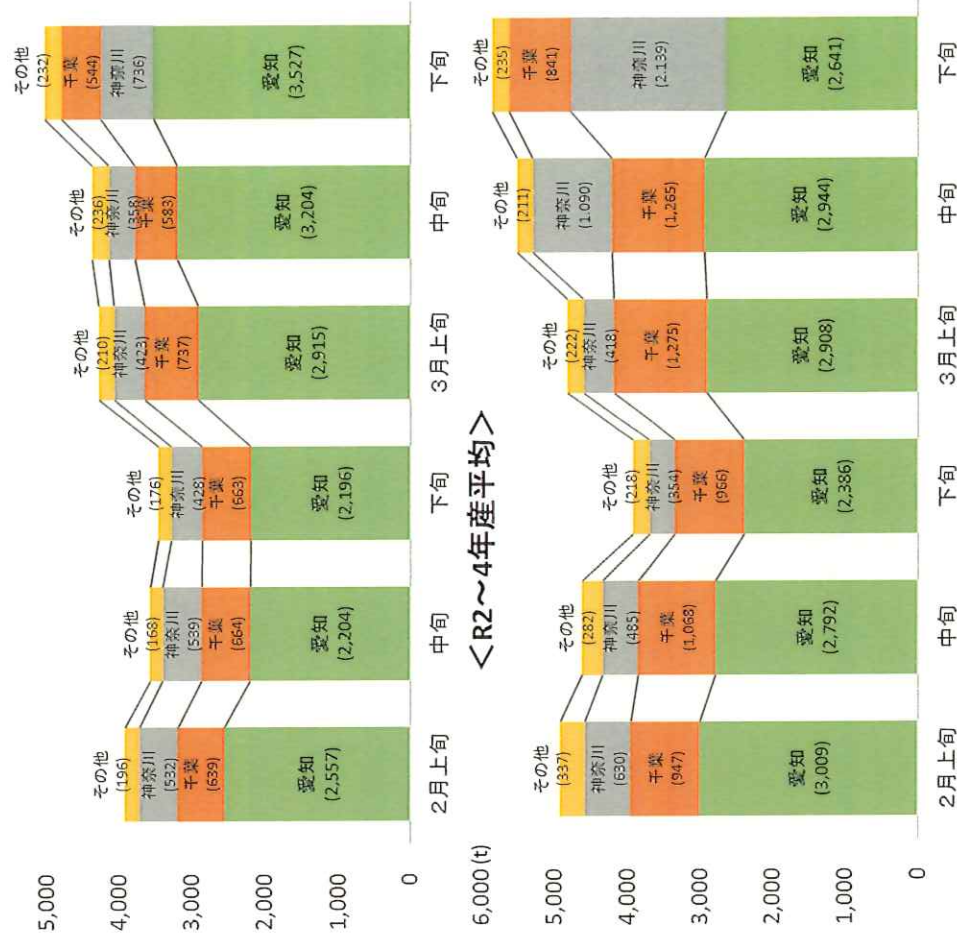
- 近年は暖冬等の影響によって出荷期間を通じて大幅安値となる傾向。
- 年により差があるものの、2月上旬から3月下旬に出荷量が増加し、価格が低迷する傾向がみられる。令和2年～3年の2年連続で緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(独)農畜産流通機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(2月上旬～3月下旬)

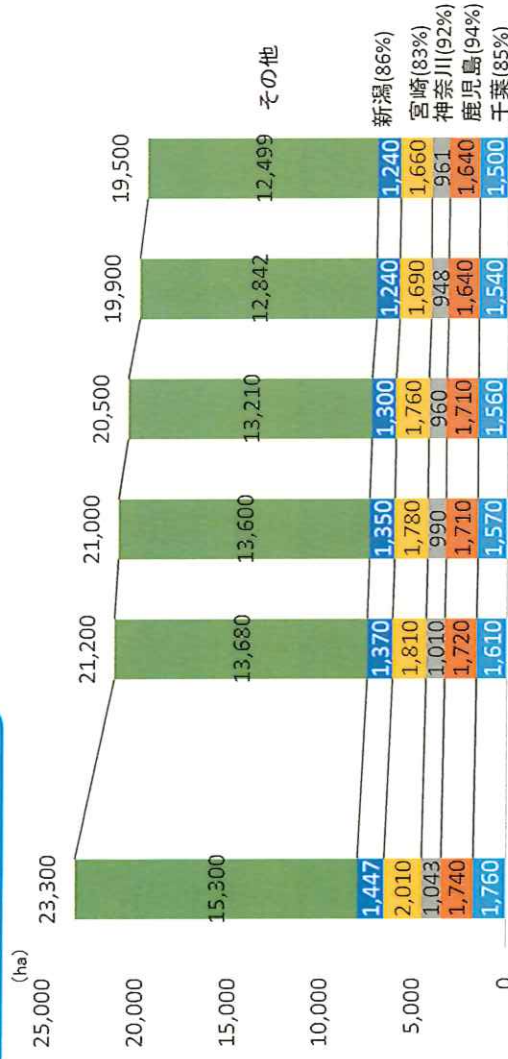


	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	24,666	29,663	120%
愛知	16,604	16,680	100%
千葉	3,829	6,363	166%
神奈川	3,014	5,116	170%

秋冬だいこんの生産・価格等動向①

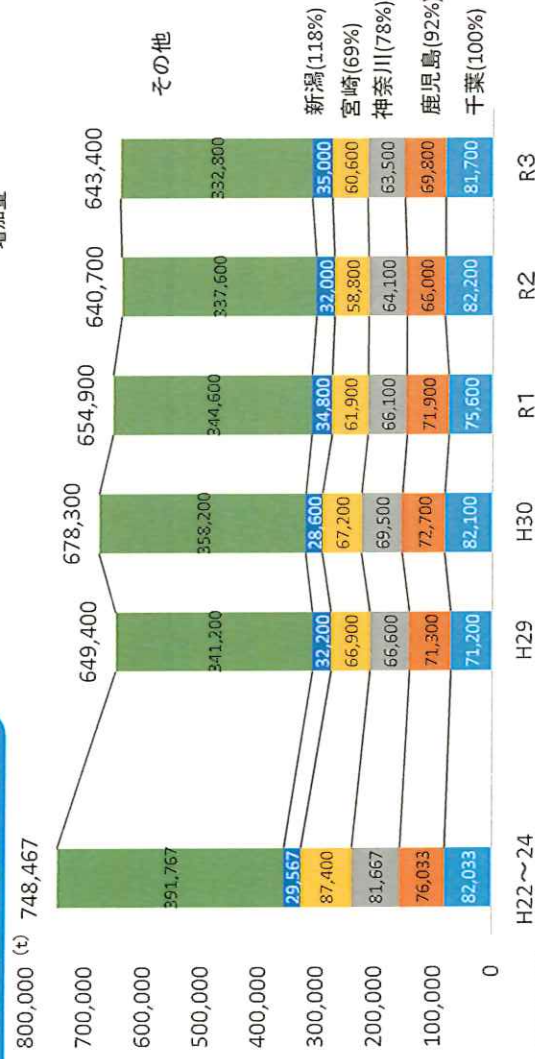
- 千葉、鹿児島、神奈川、宮崎、新潟で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体出荷量ともに大きく減少。主産県では、新潟の出荷量が大きく増加しているが、その他主産県は作付面積・出荷量ともに大きく減少の傾向。
- だいこん(生鮮)の輸入量は極少量であり、国内供給のほぼ100%が国産品。乾燥だいこんが中国等から一定量輸入されている。

1. 作付面積の推移



出典：野菜生産出荷統計

2. 出荷量の推移



※比率はH22~24年平年比の増加量

出典：野菜生産出荷統計

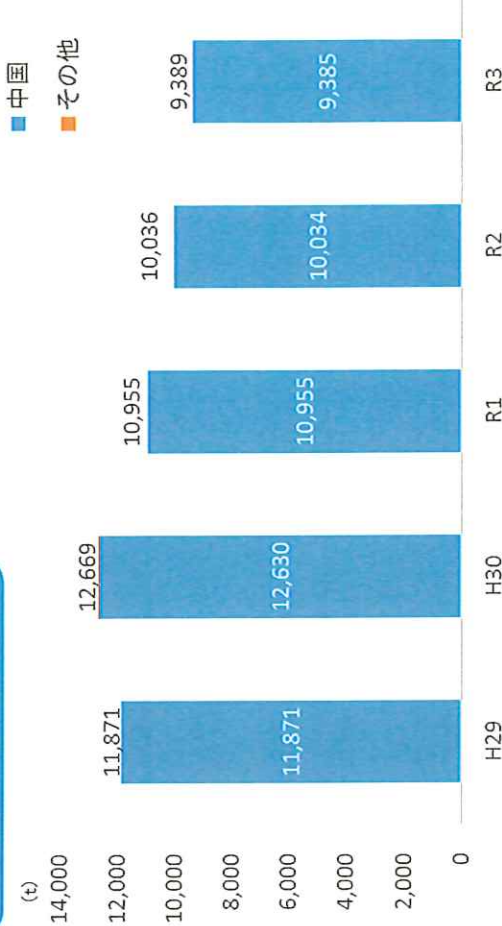
3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

※乾燥だいこんの輸入量について、生鮮換算を行っている

4. 輸入先国の内訳



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

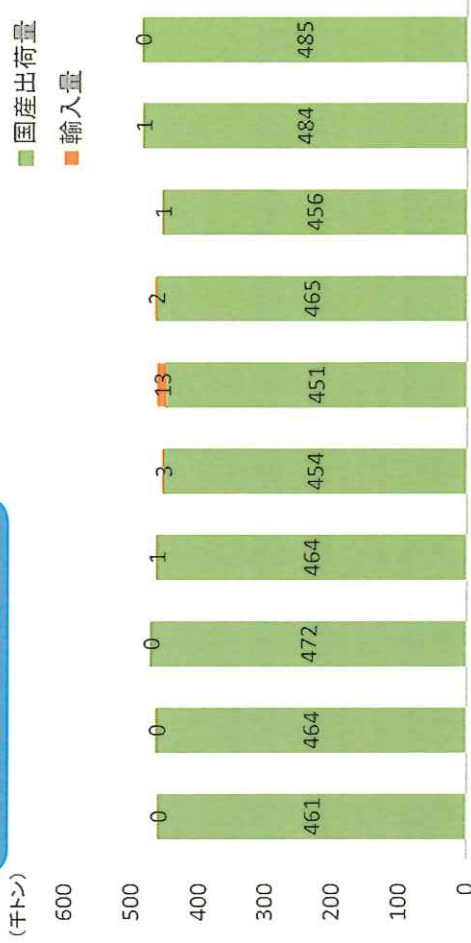
秋冬はくさいの生産・価格等動向①

- 茨城、長野で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は減少しているものの、全体出荷量は微増。主産県では、茨城の作付面積・出荷量は微増で、長野は作付面積・出荷量ともに大きく増加している。
- はくさい(生鮮)の輸入量は極少量であり、国内供給のほぼ100%が国産品となっている。

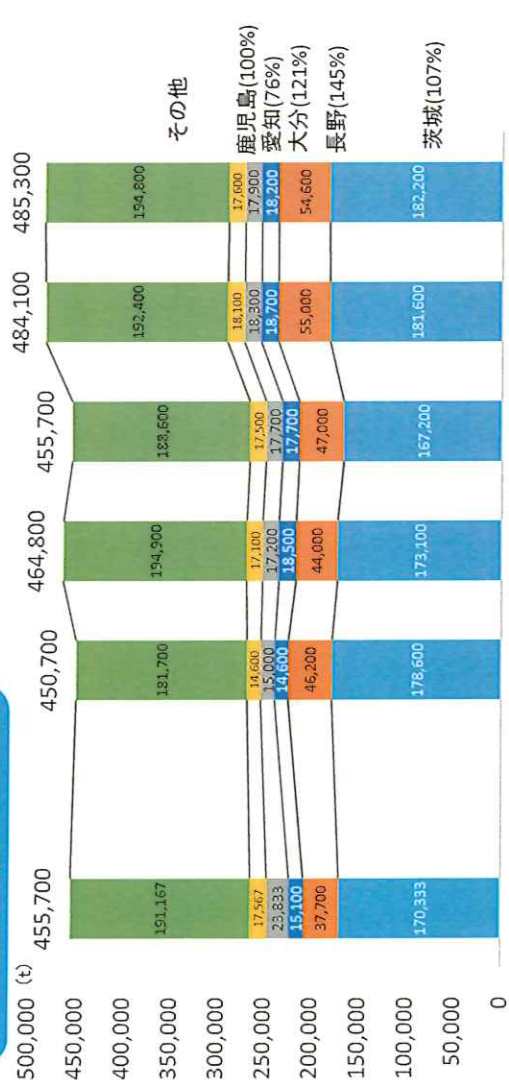
1. 作付面積の推移



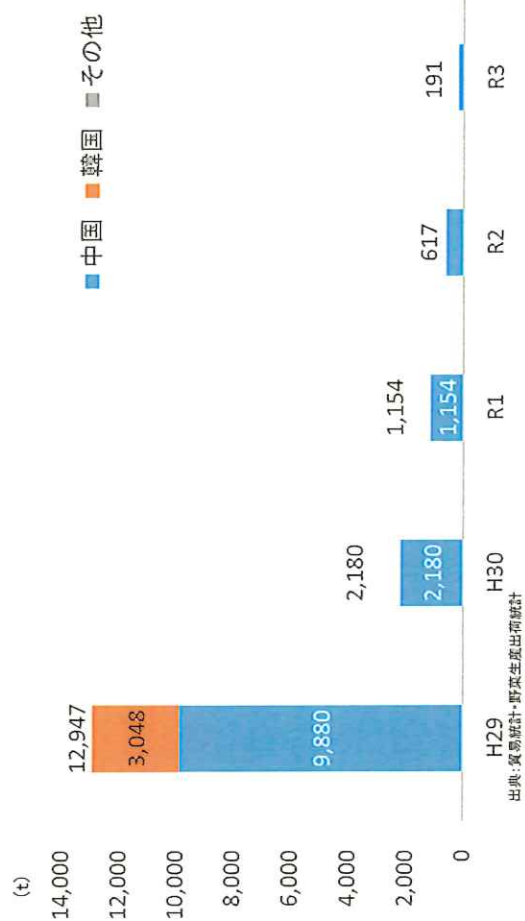
3. 出荷量と輸入量



2. 出荷量の推移



4. 輸入先国の内訳

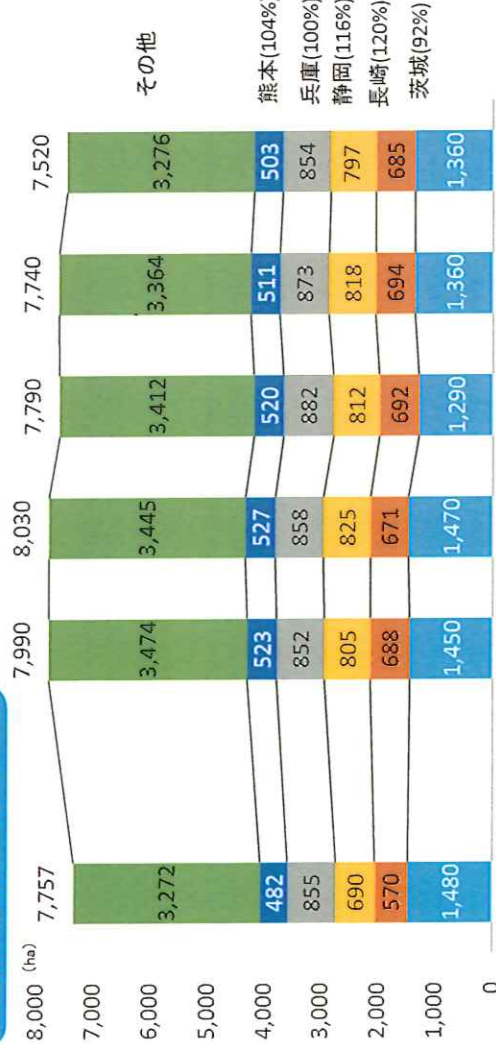


出典：(独) 露音研究所編『ベジ探』句別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

冬レタスの生産・価格等動向①

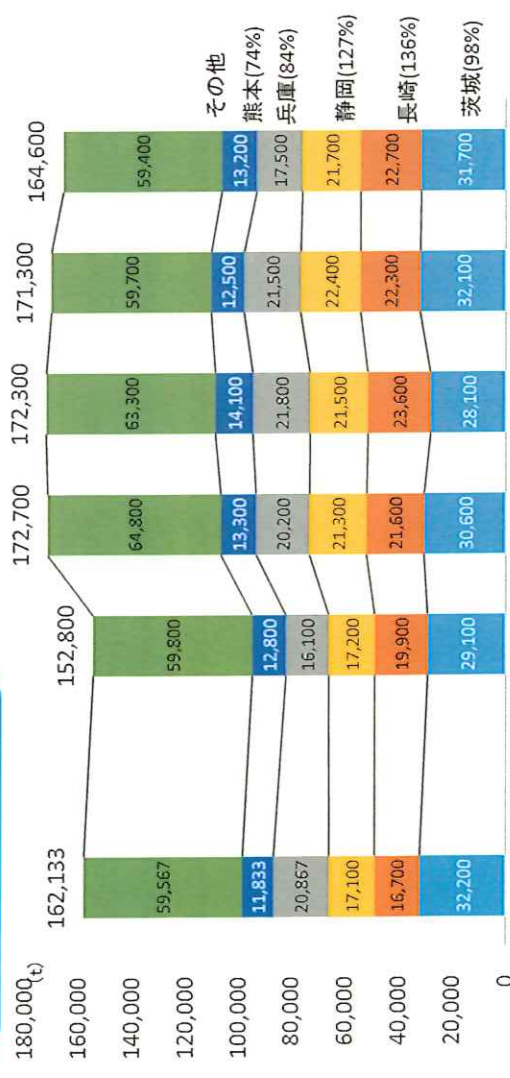
- 茨城、長崎、静岡、兵庫、熊本で全体出荷量の約6割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は横ばい、全体出荷量は微増。主産県では、茨城の作付面積・出荷量が減少する一方、静岡・長崎は大幅に増加。
- 国内生産量に比べると極少量ではあるが、加工・業務用に主に台湾から結球レタス、米国から非結球レタス(ロメインレタス等)が輸入されている。

1. 作付面積の推移



出典：野菜生産出荷統計

2. 出荷量の推移



※比率はH22~24年平年比の増加量

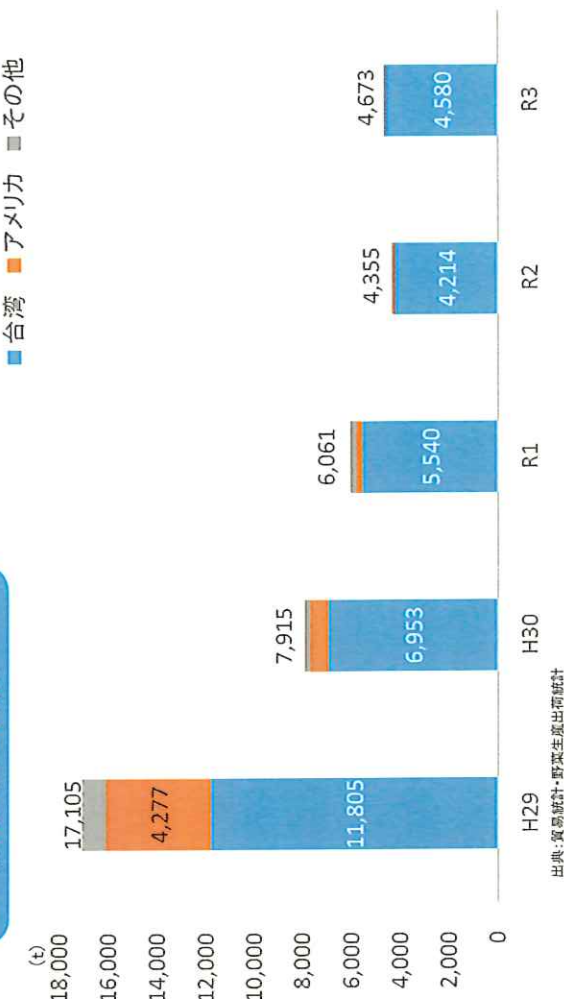
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳

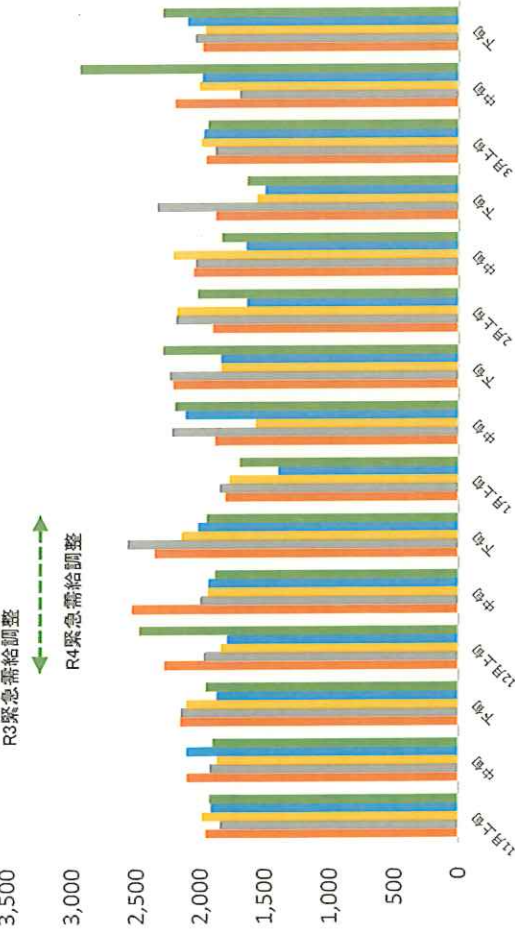
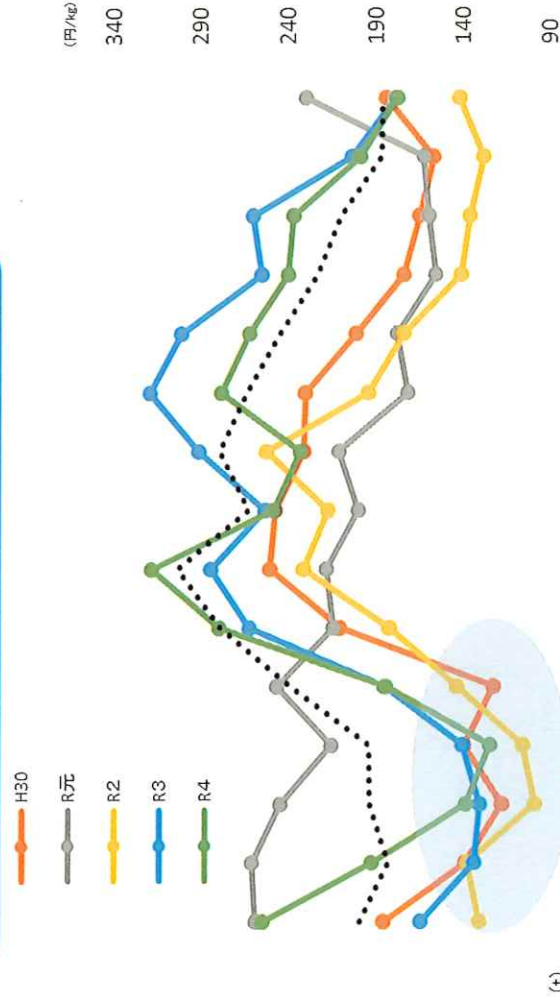


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

冬レタスの生産・価格等動向②

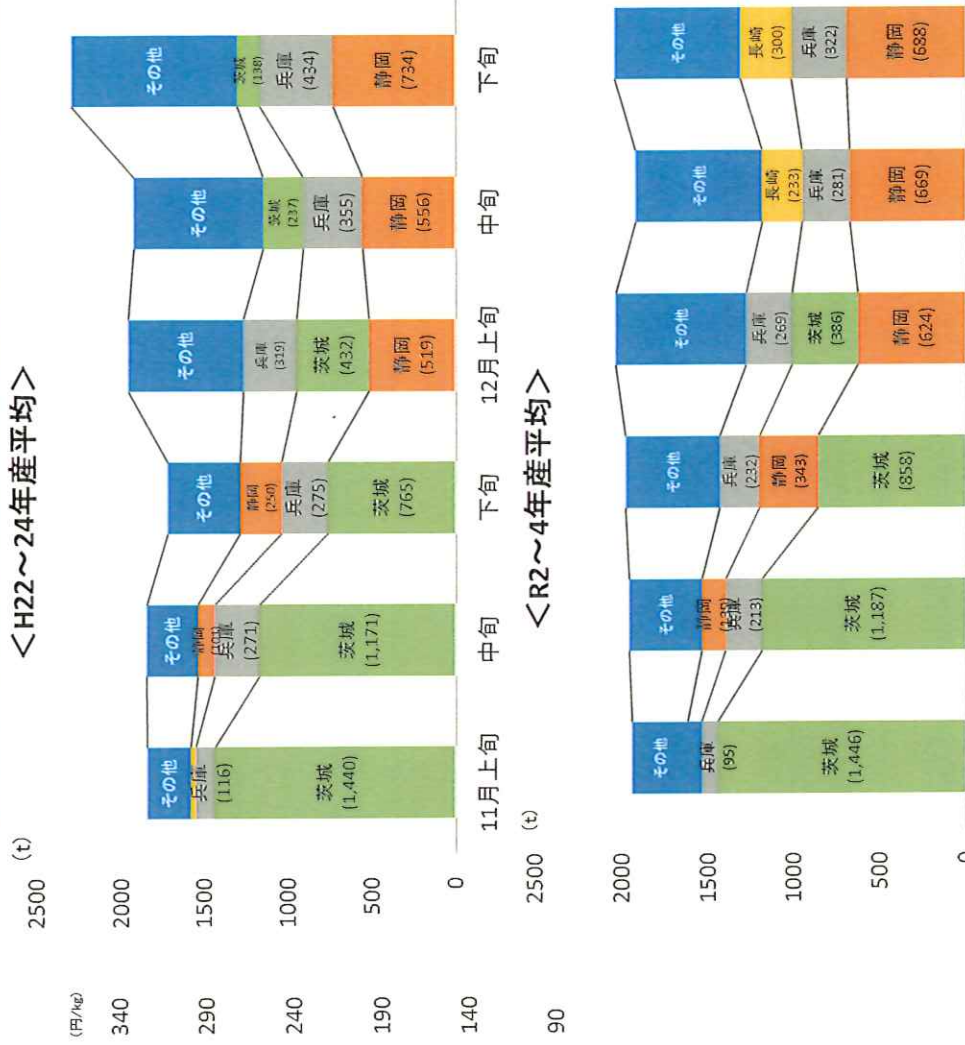
- 平成29年は長雨・台風・低温等の影響により出荷量が減少し、11月から2月にかけて価格が高騰したが、近年は暖冬等の影響によって出荷期間を通じて出荷量が増加し、安値が続く傾向。令和2年～3年の2年連続で緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(株)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～12月下旬)



	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	11,612	11,876	102%
茨城	4,182	4,185	100%
静岡	2,189	2,495	114%
兵庫	1,770	1,413	80%

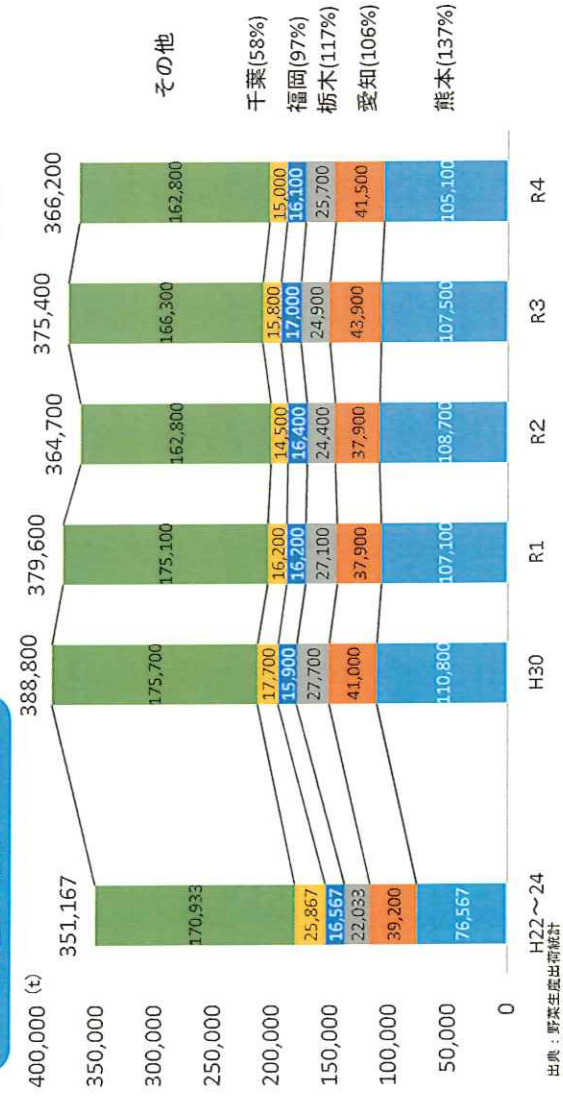
冬春トマトの生産・価格等動向①

- 熊本、愛知、栃木で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は微減したものの、全体出荷量は増加。主産県では、愛知、千葉が作付面積を減らす一方、熊本は大幅に増加。出荷量も熊本が大幅に増加している。
- 生鮮トマトの輸入量は1万トン以下と極少量。輸入量の5割程度は韓国産。

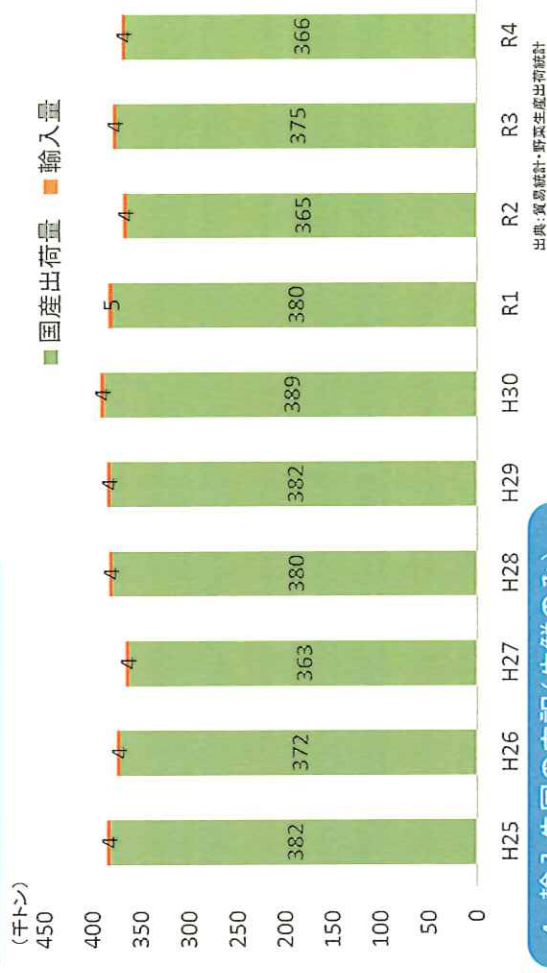
1. 作付面積の推移



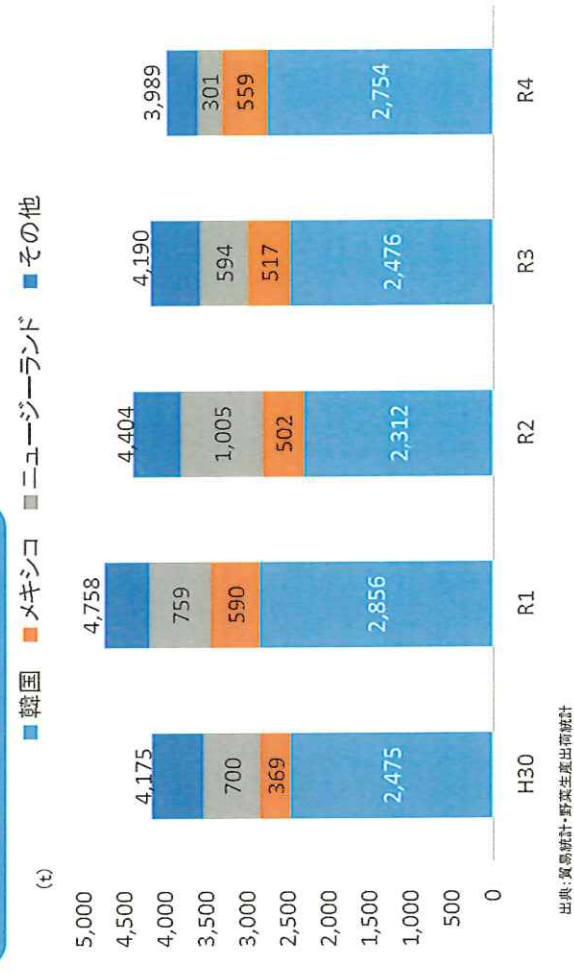
2. 出荷量の推移



3. 出荷量と輸入量(生鮮のみ)



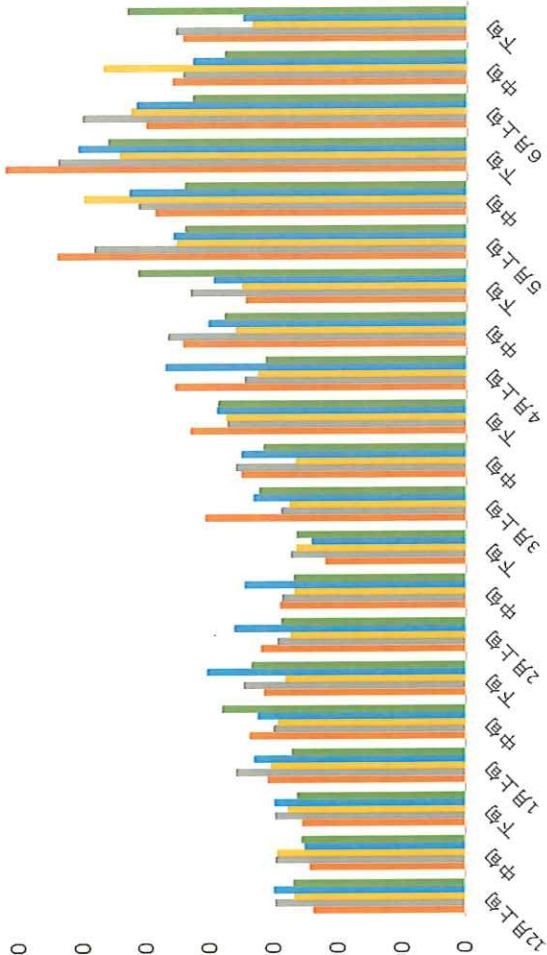
4. 輸入先国の内訳(生鮮のみ)



冬春トマトの生産・価格等動向②

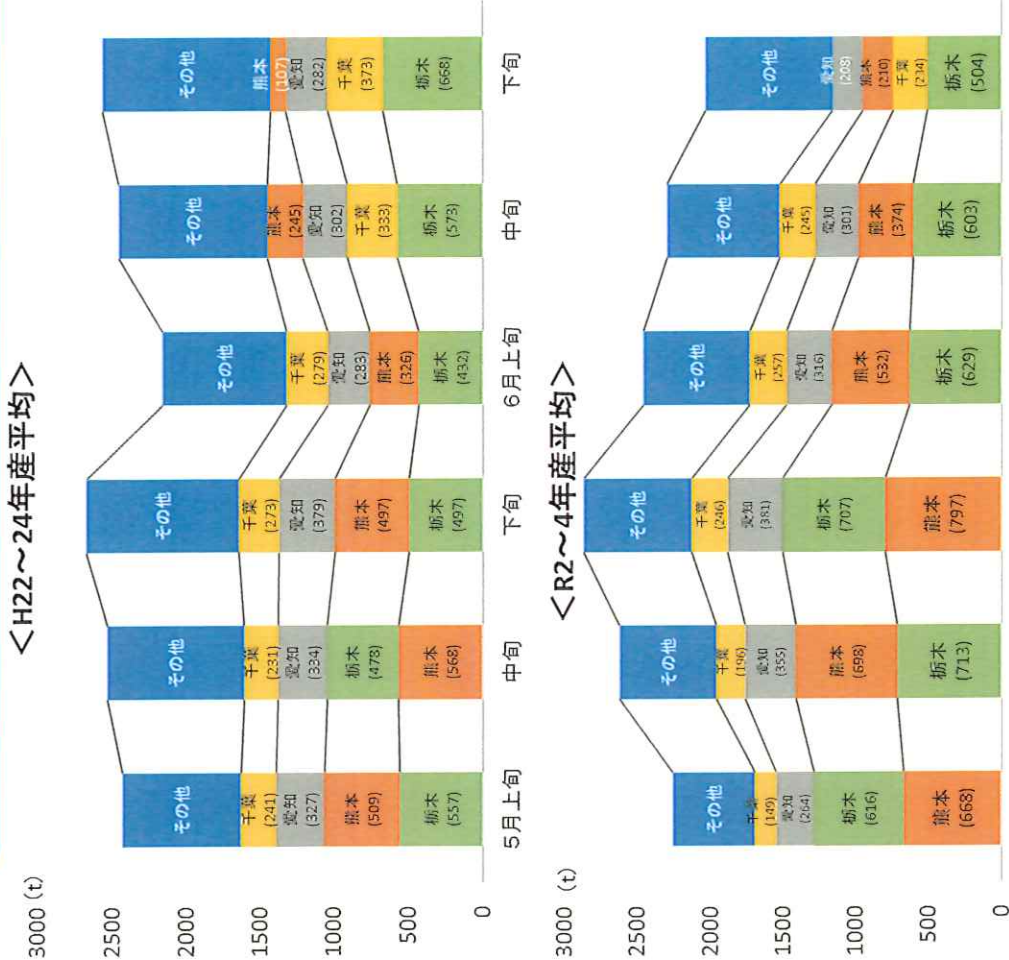
- 例年、出荷量の増加する5月から6月に価格が低落する傾向が見られる。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(独)農畜産流通機構「ベジタブル旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)」を基に作成

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(5月上旬～6月下旬)

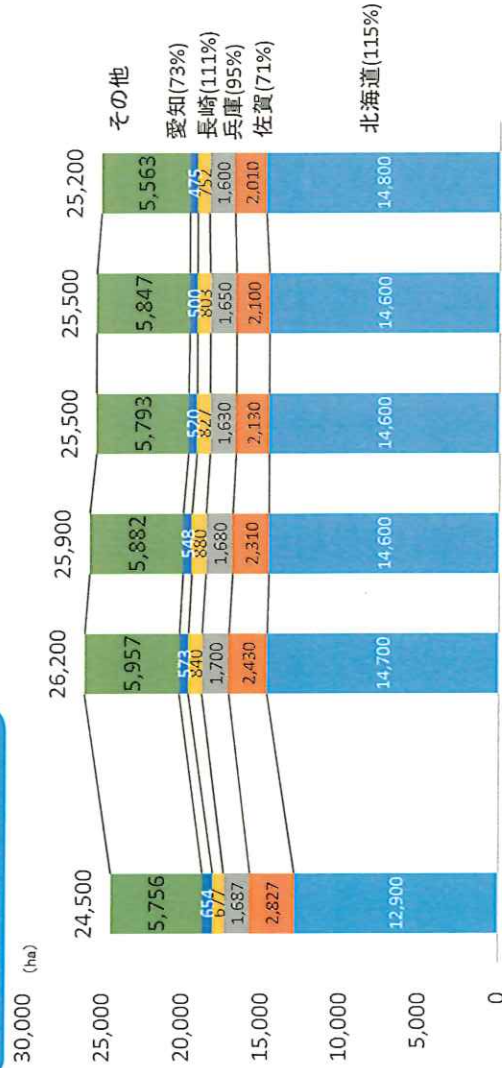


	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	14,829	14,540	98%
熊本	2,251	3,280	146%
栃木	3,224	3,773	117%
愛知	1,918	1,824	95%

たまねぎの生産・価格等動向①

- 北海道、佐賀、兵庫で全体出荷量の約8割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は増加し、全体出荷量は大幅に増加。主産県では、北海道の作付面積・出荷量がともに大幅に増加した一方、佐賀は作付面積・出荷量ともに大幅に減少。
- 生鮮たまねぎの輸入量は年25～30万トン程度で安定的に推移しており、その約95%が中国からの輸入。乾燥たまねぎは10万トン前後で推移しており、主にアメリカ、エジプト、中国からの輸入。

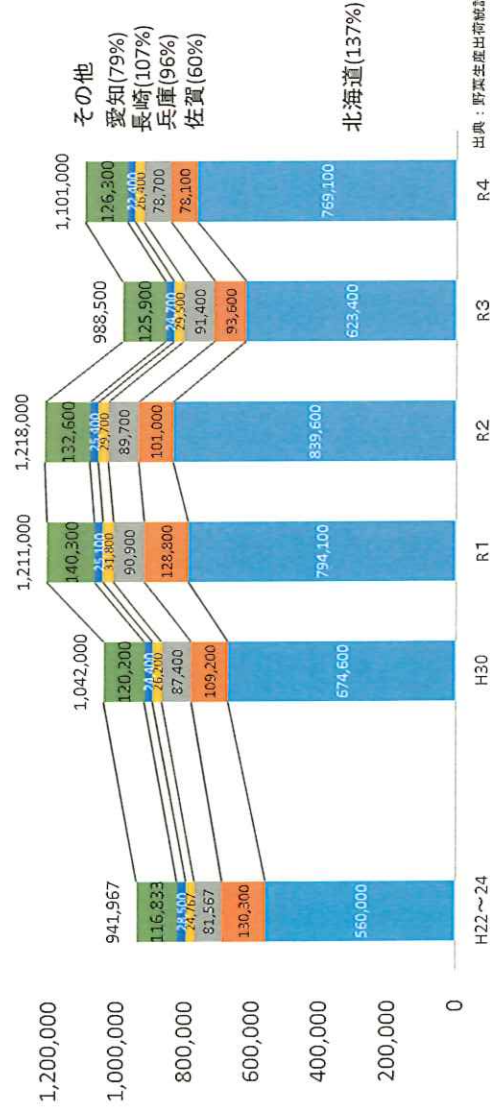
1. 作付面積の推移



出典：野菜生産出荷統計

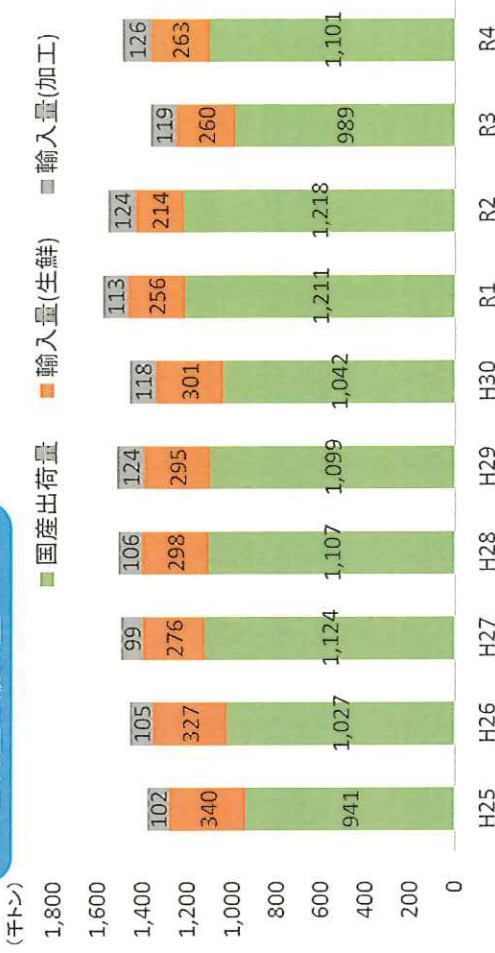
2. 出荷量の推移

※比率はH22～24年平年比の増加量



出典：野菜生産出荷統計

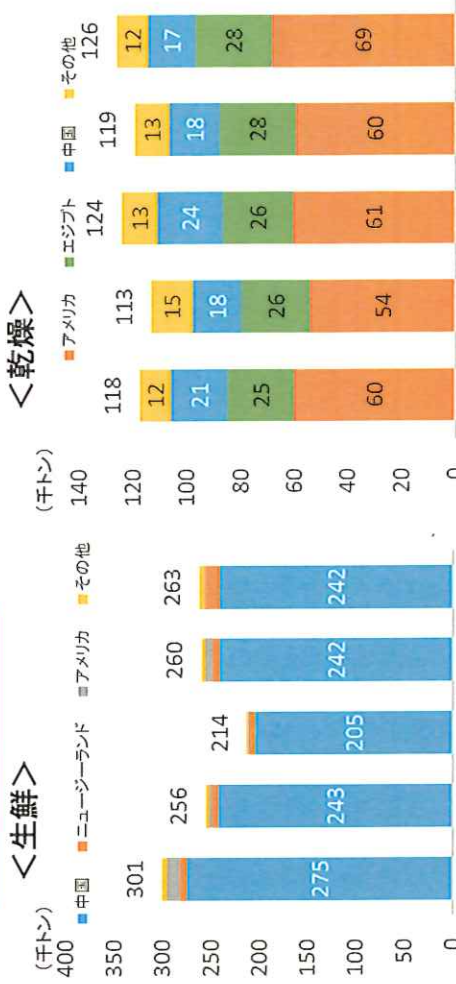
3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

※乾燥たまねぎの輸入量について、生鮮換算を行っている

4. 輸入先国の内訳

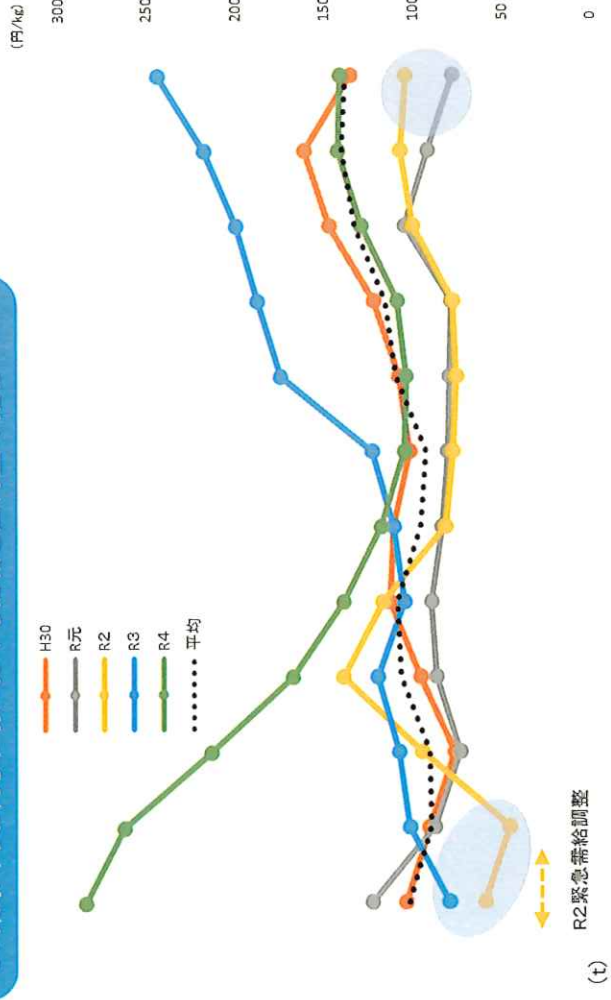


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

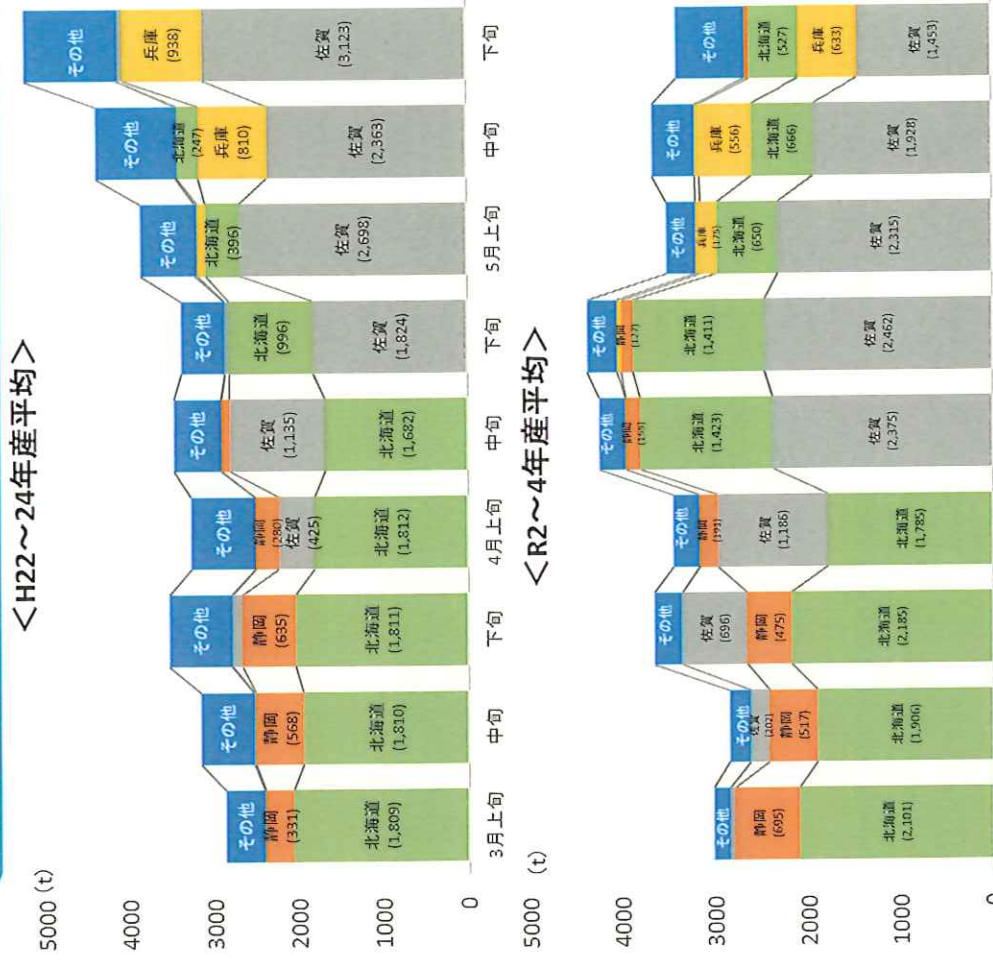
たまねぎの生産・価格等動向②

- 令和3年10月以降、令和4年にかけては、令和3年夏の高温・干ばつによる北海道産の不作により顕著な高値で推移。一方、北海道産、佐賀産等が豊作だった令和2年は春先に大幅な価格低落が発生し、緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(3月上旬～5月下旬)



	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	42,953	40,702	95%
北海道	11,301	12,871	114%
佐賀	16,435	15,977	97%
兵庫	3,388	3,833	113%